

■第2回 100人アンケート

- ・回答者数 81名
- ・性別 女性 54名(66.7%)、男性 27人(33.3%)
- ・年代 20歳代 3名(3.7%)、30歳代 3名(3.7%)、40歳代 8名(9.9%)、
50歳代 16名(19.8%)、60歳代 18名(22.2%)、70歳以上 33名(40.7%)

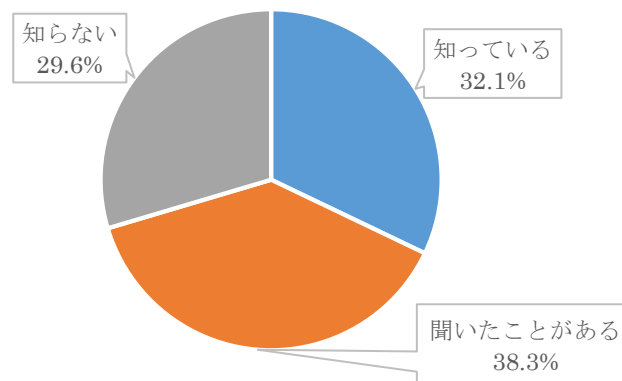
Q1. 日本は6月に開催されたG20大阪サミットに向けて「拡大版SDGsアクションプラン2019※」を発表していますが、これをご存知ですか？(SDGsについては第1回資料)

※<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/actionplan2019.pdf> 参照

(n=81)

項目	数	%
知っている	26	32.1
聞いたことがある	31	38.3
知らない	24	29.6
無記入	0	0

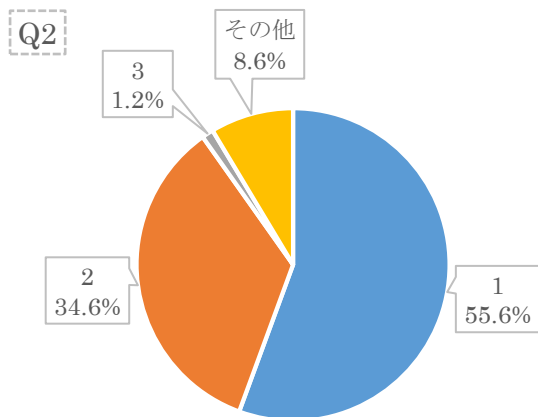
Q1



「聞いたことがある」が少し多かったものの、ほぼ3等分の回答でした。「知っている」「聞いたことがある」を合わせると約7割になりますが、G20大阪サミットに向けて、関連ニュースがテレビ・新聞などで報道されたからでしょう。

Q2. アクションプランの「食品廃棄物の削減や活用」では「食品廃棄物を原料に飼料や肥料を製造し、これを利用した農・畜産物を生産・消費する地域の『リサイクルループ』の構築」が記載されています。あなたはどのように感じますか？ (n=81)

項目	数	%
食品ロスの削減と農・畜産物の生産・消費と両方に資することなのでとても良い	45	55.6
出自の分からない食品ロスを原料とする飼料で育てられた畜産物は不安だ	28	34.6
実際に販売されるようになったら考える	1	1.2
その他	7	8.6



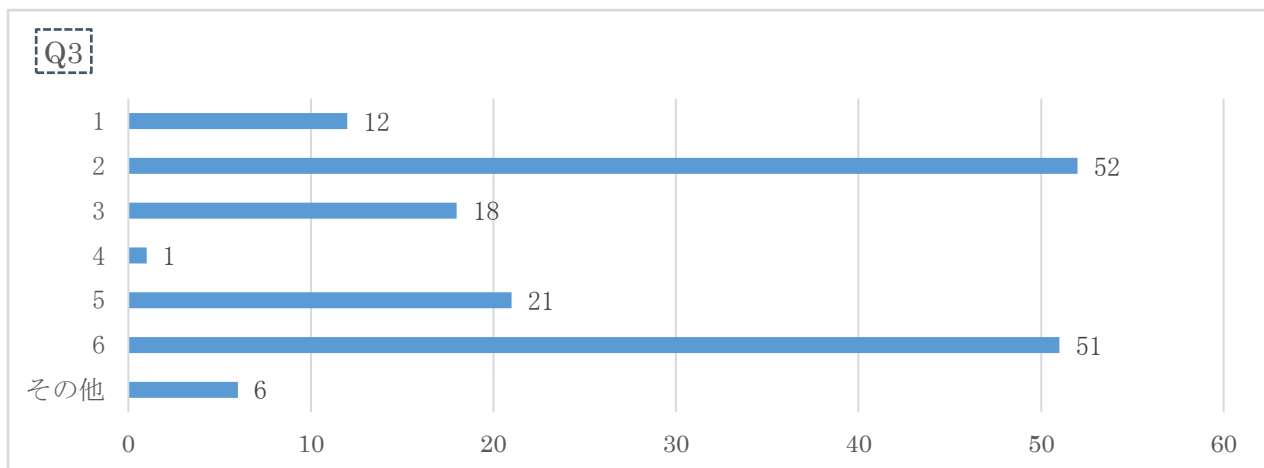
【項目の内容】

1. 食品ロスの削減と農・畜産物の生産・消費と両方に資することなのでとても良い
2. 出自の判らない食品ロスを原料とする飼料で育てられた畜産物は不安だ
3. 実際に販売されるようになったら考える
4. その他(具体的に)

半分以上の人が「食品ロスの削減と農・畜産物の生産・消費と両方に資することなのでとても良い」と回答しています。約35%の人が、どこから出たか分からない食品ロスを飼料として育てられた畜産物は不安だと回答しています。まずは食品ロスを減らすことが大切と考えている人が多いことが分かりました。現在の日本は、多くの農薬や食品添加物を使用した加工食品が多いので、今後、食品ロスを飼料とする場合のルール作りが必要だと考えます。

Q3. アクションプランの「海洋プラスチックごみ対策」では、廃プラの回収・適正処理・ポイ捨て・不法投棄の防止、ごみの回収、代替素材の開発などが挙げられています。

あなたはどのように思いますか? (回答は2つまで)



回答は、2つまでとしました。

52人(64.2%)が「プラスチック容器の使用を禁止、または抑制しないと海洋汚染は広がる」と51人(63.0%)が「海洋プラスチックごみは日本だけの問題ではないので、日本のごみ分別や収集などのノウハウを途上国などに伝えていく必要がある」を選んでいました。ここでも、環境に対する消費者の危機感が現れています。主な意見を見てみると、実施のための対策、消費者の意識改革が必要等の意見が多くありました。

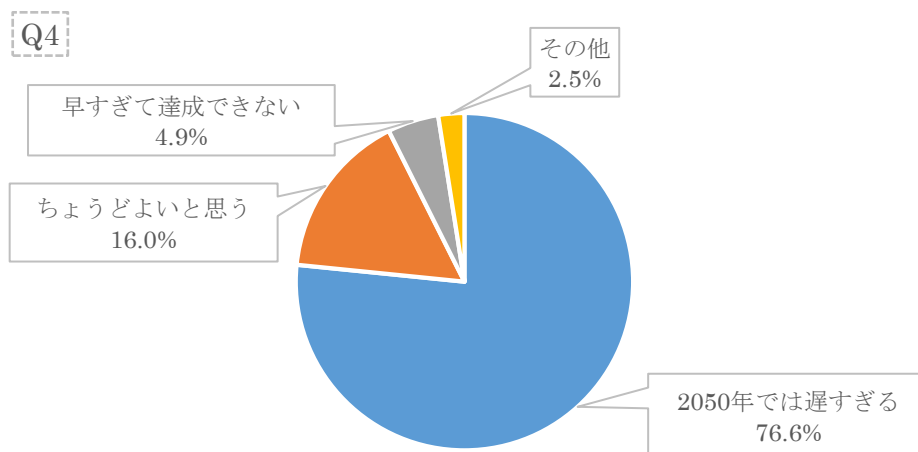
【項目の内容】

1. プラスチック容器を使用することが前提になった対策には賛成できない
2. プラスチック容器の使用を禁止、または抑制しないと海洋汚染は広がる
3. 使用禁止ではなく、廃プラをきちんと回収し、適正処理をすれば問題は解決できる
4. 使い捨てプラスチック容器に変わるほど便利なものはないので、使い続けたい
5. ごみ対策はEPR(拡大生産者責任)の原則に従い、行政と企業が責任を持って考え、実行することで、消費者に責任を転嫁すべきではない
6. 海洋プラスチックごみは日本だけの問題ではないので、日本のごみ分別や収集などのノウハウを途上国などに伝えていく必要がある
7. その他(具体的に)

Q4. G20 サミットで「2050 年までにプラスチックごみの海洋流出をゼロにし、追加的な海洋汚染を軽減する目標を導入する」ことが採択されました。あなたはこの目標をどう思いますか。

(n = 81)

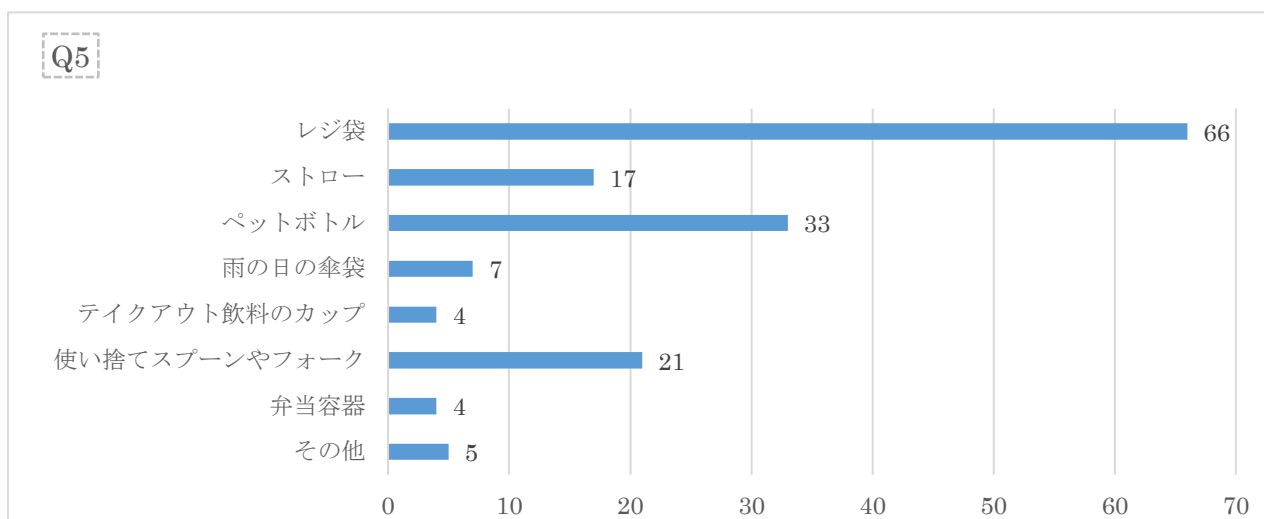
項目	数	%
海洋汚染の進み具合から 2050 年では遅すぎるのではないかと思う	62	76.6
多様な国が関わっているのだからちょうど良いと思う	13	16.0
2050 年は早すぎて達成出来ないのではないかと思う	4	4.9
その他 (具体的に)	2	2.5



2050 年では遅すぎると 3/4 以上の人が回答しており、圧倒的多数となっています。G20 には、多様な国が関わっているとはいえ、プラスチックごみを早く解決するべきと地球環境への危機感が強く表れています。記載された意見を見てみると、達成可能な政策、とにかく早く着手するべき等の意見が多く、「2050 年まで待てない」との意志が明確に現れています。

Q5. 国際的な約束では 2050 年ですが、ご自分の生活の中で減らしていけるプラスチックはどのようなものがあると考えられますか？（回答は 2 つまで）

項目	数	%
レジ袋	66	81.5
ストロー	17	21.0
ペットボトル	33	40.7
雨の日の傘袋	7	8.6
テイクアウト飲料のカップ	4	4.9
使い捨てスプーンやフォーク	21	25.9
弁当容器	4	4.9
その他	5	6.2



回答は、2 つまでとしました。

ご自分の生活の中で減らしていけるプラスチックは「レジ袋」と回答した人が 8 割以上です。マイバッグ持参の人が増えていても、まだまだレジ袋をもらってしまう場面があることが分かります。消費者として、まだまだ減らせるものはたくさんあります。企業は、消費者が望んでいる、消費者の利便性などと言っていないで、プラスチックを使わない工夫・努力が必要です。

「本気で考えれば総じて可能」との意見記載がありました。私たちが本気で地球環境を考え、行動しないと地球温暖化・気候変動は止まりません。躊躇している時間はないはずです。

以上